

O14-078

幼児期にある小児がん患者のエンド・オブ・ライフにおけるニーズを引き出す看護師のかかわり

坂上 聖奈、金子 千紘、江崎 陽子

国立成育医療研究センター

【目的】 幼児期の小児がん患者がその人らしい最期を迎えるためにはエンド・オブ・ライフにおけるニーズを引き出す必要がある。しかし、幼児期にある小児がん患者のニーズを引き出す看護師の具体的なかかわりの実態は明らかになっていない。本研究では幼児期にある小児がん患者のエンド・オブ・ライフにおけるニーズを引き出すための患者・家族へのかかわり方の実態と課題を明らかにすることを目的とする。**【方法】** A病院で幼児期の小児がん患者のエンド・オブ・ライフにおける意思決定支援の経験がある看護師に2024年9月から11月の期間に半構造的面接方法でインタビューを行い、語られた内容をカテゴリー化した。**【倫理的配慮】** 所属施設の倫理審査委員会の承認を得て、実施した。**【結果】** 調査対象者7名、臨床経験年数平均12.7年、小児がん看護経験年数平均11.5年であった。エンドオブライフにおける看護師の関わり方の実態として4カテゴリー11サブカテゴリー28コードが抽出された。カテゴリーは【患者の普段の言動からニーズを把握する】【家族とのコミュニケーションを通じて患者のニーズを把握する】【患者が発言できる環境を整える】【他職種間で連携する】があった。また、課題として3カテゴリー3サブカテゴリー5コードが抽出され、【エンドオブライフの知識が不足している】【多職種間連携が不足している】【幼児からの情報収集が困難である】があった。**【考察】** 看護師は患者と信頼関係を構築して患者が思いを表現しやすい環境を整え、患者の日常生活での言動から、患者のエンドオブライフにおけるニーズを把握しようと努めていた。余谷らは家族は「患者の声を代弁するものとしての家族の声」と「患者のことを大切に感じ、世話をするものとしての意向を表現するものの声」があり、本研究では看護師は家族から患者の思いを代弁する家族の声を大切にしていた。しかし、言語能力が未熟である幼児期患者のニーズの把握を困難に感じている。加えて、医療者のエンドオブライフの経験不足や疲弊により多職種間連携が不十分で代理意思決定の正当性を検討ができていない可能性がある。そのため、看護師は患者のアドボカシーとなり、家族を含めた多職種で繰り返し議論し、患者主体の最期が迎えられるように支援していくことが重要であると考える。

O14-079

多職種連携による小児がん患者向けインフォームド・アセント用汎用イラスト素材の開発

岩藤 百香¹⁾、大始良義将²⁾、井上 清香²⁾、渡邊 美里³⁾、松本 正富¹⁾¹⁾京都橘大学、²⁾川崎医療福祉大学、³⁾うさみみデザイン

1.研究背景と目的

インフォームド・アセントにおいては、患児の理解力に応じたわかりやすい言葉やイラスト・図表を用いて病気や治療について説明することが推奨される。一方、筆者らが先に行った日本小児がん研究グループに属する看護師へのアンケート調査からは、患児向けの資料を作成している病院は2割に留まり、7割の病院が必要性を感じつつ資料を作成していない状態が把握された(註1)。本稿では、作成に至らない理由として「業務と並行して患児に伝わりやすいイラストを作成する時間的困難さ」「作成スキルを持つスタッフの不足」が挙げられたことに着目し、小児がん患者向け資料の作成環境改善に有効な要件の抽出を目的として開発したインフォームド・アセント用汎用イラスト素材を開発するWebサイトについて述べる。

2.研究方法

イラスト素材は、小児がんの3割を占める白血病に関する42点である。Webサイトでの公開に向けて、看護師にとってのサイトの見やすさやイラストの探しやすさなどユーザインターフェイスを検証する複数のデザイナー、医療監修を行う看護師、イラストレーターによる多職種連携チームを編成した。メンバーによる看護師へのヒアリング調査を経て「必要な素材を一つずつ探す時間が長い」「資料のレイアウトが難しい」が挙げられたことから、看護師が必要に応じて、個々のイラスト・白血病に関するイラストをまとめたファイル・説明文とイラストがレイアウト済みで編集可能な資料のひな型という3パターンのダウンロードができるようにした。イラストはカラーとモノクロが選べ、印刷環境や患児の色覚による見づらさが生じないよう配慮した。また、院内での説明が目的であれば無料・登録不要・レンジ可としてユーザーの利便性を高めた。Webサイトは隨時メンバー間で共有し、それぞれの専門的立場から改善点を検討した。

3.結果と展望

Webサイトに対して、看護師からは「病気の説明に必要なイラストがセットになっていれば、資料を作成したいと思えるのではないか」と期待が寄せられた。今後は、イラスト素材の充実とWebサイトの改善を図るとともに、看護師による印象評価を行って資料作成環境の改善に対する有効性を検証したい。

【註】

1.岩藤ら：小児がん患者向けインフォームド・アセント資料の導入実態とデザインに関する一考察、デザイン学研究、68(4), p.65-70, 2022

【附記】

本研究はJSPS科研費19K02634の助成を受けた。